
三題噺「禁断の恋心」

三木こう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三題噺「禁断の恋心」

【Nコード】

N2540T

【作者名】

三木こう

【あらすじ】

兄、そしてその妹。

兄の持つ異常な恋心とは……？

「はあはあ、可愛いなあ伊勢エビ」

あの赤い甲冑のような肌は艶めかしくてくついつい目で追ってしま
う。水槽の中を気持よさそうに泳いでいる様がたまらない。なにが
いってもうそのすべてが美しい。

「はあはあ、可愛いなあナマコは」

細長くてうねうねして柔らかさそうな肌はついさわりたくなってし
まう。あまり水槽の中から出すのはよくないだろうから自重してい
るが、子供のころは触りすぎてよく怒られてものだ。

「はあはあはあ、可愛いなあほんとに、海洋生物ってなんでこんな
に綺麗なんだろう」

俺みたいな高校生の語彙では表現しきれない、すんばらしい魅力。
それに酔いしれるための専用水槽を眺めながら、俺の優雅な時間は
過ぎていく。

「はあはあはあはあはあ」

「ハアー」

しかし俺のはあはあタイムは扉の前から聞こえる大きなため息で
かき消された。

「ちよつと、お兄ちゃん。またはあはあしてるの？」

「はあはあってなんだよ。観賞してるだけだろ？」

妹だった。学校から帰ってラフな格好へと着替えたのだろう、髪
の毛も外に行くときはロングなのに、今はポニーテールに括ってい
る。

まったく気づかなかった、こいつが帰ってきているならもう少し
考慮するべきだったかもしれない。

だから、

「ほんと、キモイんだけど、この生物」

こうやって突っかかれてしまうのだった。

「いや、しょうがないだろ可愛いから」

「は、可愛くないし、キモいだけだし」

「いやいや見るよ、この触覚、ふりふりしてて可愛いだろ」

「はあ、そんなのより私のポニーテイルのが可愛いに決まってんじやない」

「いやいや見るよ、この感触、ふにつぷにやぞ。天然もののナマコやぞ」

「はあ、そんなのより私の……その、あの……お、おっぱいのがいしし!!」

「ん？」

「ん？」

なんだか、話が変わる方向に進んでいるよな気がする。とてつもなく、背德的というか桃色というか、何この雰囲気。

「ともかく、こんなキモい生物より、私のが可愛いんだから！」
と、言い切ると、妹は俺の部屋から出て行った。

なんとなく背德的な情景を思い浮かべ、フラグじゃねえかと一通りニヤニヤしたのちに、ふと気づく。

「っていうか、俺こいつらのが好きだし」
どうやら俺は人間として、家族として道を踏み外さずにすむらしい。

なんてったって、どうみたって、伊勢エビや、なまこのほうが…
…えろいんだから。

(後書き)

お題、「なまこ」、伊勢エビ、背徳感」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2540t/>

三題噺「禁断の恋心」

2011年10月9日03時00分発行